

設置計画の概要

事 項	記 入 欄
事前相談事項	事前伺い
計画の区分	学部の学科の設置
フ リ ガ ナ 者	コクリツダイガクホウジン ミエダイガク 国立大学法人 三重大学
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称	ミエダイガク 三重大学 (Mie University)
新 設 学 部 等 に お い て 養 成 す る 人 材 像	<p>生物資源学部</p> <p>①教育・研究の基本理念 自然と人類の共存を図り、生物資源の適切な開発と利用を追求する学問を確立し、その基礎的、応用的な科学技術を教授・研究することによって、独創性と専門性を兼ね備えた人材養成を目指す。</p> <p>②教育目的 生物資源に関する独創性及び専門性を兼ね備えた広い視野を持ち、地域に根ざしたグローバルな視点に立ち、自らの力で問題解決ができる知識及び能力を身につけた人材を育成し、自然との共存を図り、生物資源の適正な開発・利用・保全を追求し、地域及び国際社会に貢献することを目的とする。</p> <p>生物資源学部生物圏生命化学科</p> <p>①生物資源を利活用した産業の創出によって、人類の福祉と地域創生に貢献するための基礎的素養として、生物資源とそれを育む自然環境に対する幅広い知識とバイオ化学に関する専門知識を兼ね備え、高い倫理観と広い視野および独創性を持ち、自ら問題を発見し、それを解決する能力を身につけた人材の育成を目指す。</p> <p>②昨今のバイオ産業の発展において、多くの企業では生物機能の利用や有効物質の抽出などの生物資源の利用は、特定の生物種にとらわれず、陸海合わせた多様な生物資源の利活用を目指している。そのような事業を担う技術者は、農芸化学や水産化学という枠組みにのみとられるのではなく、多様な生物資源の利活用に対応できる能力が求められている。また、長寿社会となった現在、サプリメント等を摂取することで健康の自己管理を行うセルフメディケーションが重要になってきた。平成27年4月1日から新たな食品の表示制度である機能性表示食品が消費者庁によって施行されたが、本学部においても多数の食品関連企業との共同研究により、機能性表示食品の認可に向けて研究開発を行っている。このように、農産物から水産物に至る食品の機能性に関して教育・研究を行うのが生物圏生命化学科であり、生物圏生命化学科が養成する人材は現在の社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものとなっている。このような社会ニーズに応えられる人材を育成することができる。</p> <p>しかし、現在の生物圏生命化学科では、初期段階での専門基礎教育が拡散してしまい、専門教育を深化させる上では効率性を損なう面があったので、当初から生命化学系と海洋生物学系としての教育体制であることを認識した学生を入学させ、その中で更なる専門性を後に選択させる(レイトスペシャリティー)教育体制とすることが学生にとっても望ましく、学科を分割して学生を募集すれば、学ぶべき指針が明確になると期待できる。</p> <p>本学科は、農芸化学系と水産化学系からなる学科とし、全国にない農業および水産の化学系の特徴を合わせ持つ学科である。生物資源を活かす総合的な生命化学を教育・研究する学科であり、陸や海に生息する多様な生物の代謝機能やこれらの生物が生産する物質の化学構造と生理機能を明らかにし、医薬品・食品・化粧品などの開発や未利用資源の利活用に着目するバイオサイエンスとバイオテクノロジーについて教育・研究を行う。学科内では、農芸化学分野と水産化学分野が専門性を活かしながら連携していくため、生命機能化学教育コースと海洋生命分子化学教育コースの2つの教育コースを設置する。</p> <p>③卒業後の進路等 バイオサイエンス関連、食品関連、医療・化粧品関連、教員、官公庁等</p> <p>生物資源学部海洋生物資源学科</p> <p>①海洋環境を保全しながら、海洋生物資源を持続的に生産することによって、人類の福祉と地域創生に貢献するための基礎的素養として、海洋に関する幅広い知識と海洋生物に関する専門知識を兼ね備え、高い倫理観と広い視野および独創性を持ち、自ら問題を発見し、それを解決する能力を身につけた人材の育成を目指す。</p> <p>②海洋生態系の保全ならびに海洋生物資源の持続的生産のための教育・研究を行う学科である。現在、海洋生物資源の持続可能な利用や海洋生物多様性の保全に対し、国民の関心ならびに社会的ニーズが高まっている。こうした中、海洋生物資源を持続的に利用するとともに、地域産業の創出につなげていくためには、研究開発ならびに若手人材の積極的な育成が必要である。そのため、微細藻類から脊椎動物にわたる様々な水圏生物を対象にして、海洋における生物と環境との関係を正しく理解し、分子レベルから生物レベルに至る多様な視点から自然との共存のあり方を探求するとともに、これらの知見を海洋生物資源の持続的生産と利用に役立てる教育・研究を行う。特に昨今はイルカの捕獲が大きな社会的関心を集め、イルカの保護と関連産業の両立が課題となっているが、鯨類の増養殖研究で先行している本学部はそのような課題を担える人材育成で大きな役割を果たすことができる。</p> <p>また、三重県南部地方(伊勢志摩・南紀)において水産業は、観光と並び三重県における主要産業である。このため、これらの地域の再生においては、水産業およびその関連産業の再生は重要な課題である。水産業およびその関連産業の再生には、それを支える水産技術者の育成は不可欠である。</p> <p>しかし、現在の生物圏生命化学科では、初期段階での専門基礎教育が拡散してしまい、専門教育を深化させる上では効率性を損なう面があったので、当初から生命化学系と海洋生物学系としての教育体制であることを認識した学生を入学させ、その中で更なる専門性を後に選択させる(レイトスペシャリティー)教育体制とすることが学生にとっても望ましく、学科を分割して学生を募集すれば、学ぶべき指針が明確になると期待できる。</p> <p>本学科は、水産生物資源に関わる教育を総合的・体系的に実施するため、1学科1教育コースとし、海洋生物資源学教育コースを置き、主に海洋生態系の保全と水産生物資源の管理に主眼を置いた海洋生産学プログラムと環境に配慮した効率的な増養殖技術に主眼を置いた水圏増殖学プログラムを設ける。</p> <p>③卒業後の進路等 水産関連の企業(水産食品製造業、水産物流通業など)、漁協(主に県漁連)、環境コンサルタント、官公庁等</p>

既設学部等において養成する人材像	<p>生物資源学部</p> <p>①教育・研究の基本理念 自然と人類の共存を図り、生物資源の適切な開発と利用を追求する学問を確立し、その基礎的、応用的な科学技術を教授・研究することによって、独創性と専門性を兼ね備えた人材養成を目指す。</p> <p>②教育目的 生物資源に関する独創性及び専門性を兼ね備えた広い視野を持ち、地域に根ざしたグローバルな視点に立ち、自らの力で問題解決ができる知識及び能力を身につけた人材を育成し、自然との共存を図り、生物資源の適正な開発・利用・保全を追求し、地域及び国際社会に貢献することを目的とする。</p> <p>生物資源学部資源循環学科 ①資源循環学科は、生物資源を効率よく循環利用するための技術開発や新しい社会のデザインをすることができる人材を育成し、調和のとれた循環型社会の構築に貢献することを目的とする。 ②資源環境学科では、生物の生命の仕組み、それらの生物を取り巻く環境、生物多様性についての学問を通して、生物資源の持続的利用の教育・研究を行う。 ③卒業後の進路等 国・地方公務員、農林水産関連企業および関連団体、研究機関、教員等</p> <p>生物資源学部共生環境学科 ①共生環境学科は、陸圏・海洋圏・大気圏が複雑に連動する地球生態システムに関わる問題に対応できる専門知識・技術を有した人材を育成し、人間活動と生態系が調和する持続的社会的構築に貢献することを目的とする。 ②共生環境学科では、陸圏・海洋圏・大気圏が複雑に連動する地球生態システムを対象に、「微生物相」から「地球そのもの」というようなミクロスケールからマクロスケールまでをカバーする気象学・環境科学・生態科学などの基礎サイエンスに根ざした教育・研究を行う。 ③卒業後の進路等 国・地方公務員、環境調査・管理技術関連、情報通信、住宅関連の民間会社、環境計画・影響評価に関係するコンサルタント会社、土木建設会社、産業機械製造会社、鉄道会社、教員、研究機関等</p> <p>生物資源学部生物圏生命科学科 ①生物圏生命科学科は、生命科学に関する専門性及び独創性を兼ね備えた幅広い知識及び技術を有する人材を育成し、生物多様性の維持、持続的食料生産及び人類の健康増進に貢献することを目的とする。 ②生物圏生命科学科では、個々の学生が資源生物の生命現象に関する基本原理を生態系、群集、個体群、個体、器官、細胞、分子レベルで理解するとともに、生物科学の研究に必要な研究技法を修得するための教育・研究を行う。 ③卒業後の進路等 農・水産業等バイオサイエンス関連、食品関連、医薬・化粧品関連、農業関連、漁業・養殖業関連、海洋開発等のコンサルタント関連、教員、官公庁等</p>
------------------	---

新設学部等において取得可能な資格	<p>【生物圏生命化学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校教員1種（理科、農業） ア 国家資格、イ 資格取得可能、ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要 ・食品衛生管理者・食品衛生監視員 ア 国家資格、イ 資格取得可能、ウ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。 ・学芸員 ア 国家資格、イ 資格取得可能、ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、学芸員関連科目の履修が必要 <p>【海洋生物資源学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校教員1種（水産） ア 国家資格、イ 資格取得可能、ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要 ・学芸員 ア 国家資格、イ 資格取得可能、ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、学芸員関連科目の履修が必要
------------------	--

既設学部等において取得可能な資格	<p>【資源循環学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校教員1種（理科、農業） ア 国家資格、イ 資格取得可能、ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要 ・学芸員 ア 国家資格、イ 資格取得可能、ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、学芸員関連科目の履修が必要 ・樹木医補 ア 民間資格、イ 資格取得可能、ウ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。 <p>【共生環境学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校教員1種（理科、農業） ア 国家資格、イ 資格取得可能、ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要 ・学芸員 ア 国家資格、イ 資格取得可能、ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、学芸員関連科目の履修が必要 ・測量士補 ア 国家資格、イ 資格取得可能、ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、測量士補関連科目の履修が必要 ・技術士補 ア 国家資格、イ 資格取得可能、ウ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。 <p>【生物圏生命科学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校教員1種（理科、農業、水産） ア 国家資格、イ 資格取得可能、ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の履修が必要 ・食品衛生管理者・食品衛生監視員 ア 国家資格、イ 資格取得可能、ウ 卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。 ・学芸員 ア 国家資格、イ 資格取得可能、ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、学芸員関連科目の履修が必要
------------------	---

新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員			
						学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元	助教以上	うち教授	
	生物資源学部 [Faculty of Bioresources]	生物圏生命化学科 [Department of Life Science and Chemistry]	4	80	3年次 2	324	学士 (生物資源学)	農学関係	平成29年4月 第1年次	生物圏生命科学科 新規採用	26	12
									平成31年4月 第3年次		2	2
										計	28	14
	海洋生物資源学科 [Department of Marine Bioresources]	4	40	3年次 2	164	学士 (生物資源学)	農学関係	平成29年4月 第1年次	生物圏生命科学科 新規採用	15	7	
								平成31年4月 第3年次		1	1	
									計	16	8	

既設学部等の概要	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
						学位又は称号	学位又は学科の分野		異動先	助教以上	うち教授
生物資源学部	資源循環学科	4	70	3年次(生物資源学部全体で編入学定員10、収容定員20で、学科別収容定員の外数)	280	学士(生物資源学)	農学関係	平成12年4月	資源循環学科	30	14
									計	30	14
									共生環境学科	29	16
	共生環境学科	4	70	10、収容定員20で、学科別収容定員の外数)	280	学士(生物資源学)	農学関係	平成12年4月	退職	2	1
									計	31	17
									生物圏生命化学科	26	12
	生物圏生命科学科(廃止)	4	100	10、収容定員20で、学科別収容定員の外数)	400	学士(生物資源学)	農学関係	平成12年4月	海洋生物資源学科	15	7
									退職	3	3
									計	44	22

【備考欄】

生物資源学部

生物圏生命科学科(廃止) (△100)

※平成29年4月学生募集停止

3年次編入学定員変更

学科共通(廃止) (△10)

資源循環学科[定員増] (3)(平成31年4月)

共生環境学科[定員増] (3)(平成31年4月)

(学科共通3年次編入学定員は平成31年4月学生募集停止)

人文学部

文化学科[定員減] (△ 8)(平成29年4月)

法律経済学科[定員減] (△ 12)(平成29年4月)

教育学研究科

教職実践高度化専攻の設置 (14)(平成28年3月意見伺い)

教育科学専攻(修士課程)[定員減] (△14)(平成29年4月)

地域イノベーション学研究科

地域イノベーション学専攻(博士前期課程)[定員増] (10)(平成29年4月)